

平成28年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第2分科会

都留市立谷村第二小学校

教諭 花上 和広

土曜参観・体験学習会 ～地域の人から学ぼう集会～

1、谷村第二小学校の概要

本校は、都留市の東に位置し、学区は、法能地区、玉川地区、サントウン玉川地区、宮原地区、戸沢・引の田地区等よりなっている。古くから米づくりが盛んな地域であり、三世代が同居する家庭が多いため、各家庭は昔からのつながりが強く、地域の教育力も高く、地域の学校という意識がつよい。



学校の前を走る都留バイパスは、最近「都留トンネル」が開通し、禾生までつながったので、大月方面へのアクセスがよくなった。そのため交通量も増すとともに、道路周辺に新しい家が建ち並ぶようになってきた。新居が建つので、児童数は減少することなく、毎年120名前後の児童数を確保できている。本年度は1年生19名、2年生20名、3年生26名、若竹学級1名、4年生24名、5年生13名、6年生20名の計123名である。教職員は15名（含：市担補助員1名）である。

2、谷村第二小学校の特色

地域の教育力を生かす活動として、地域の方を学校に招き、土曜参観・体験学習会「地域の人に学ぼう集会」を開催している。また、地域に学校を開くということで毎年6月に「参観週間」と名づけ、保護者の方が来やすい時に来られるよう配慮して、月～金曜日の一週間を朝から夕方まで学校開放日としている。最後の金曜日の午後は子供たちが出店を出す「谷二っ子まつり」（児童会主催）を催し、それにはほとんどの保護者が参加している。そのほか、保護者や地域の方にサポートティーチャーとして、遠足や生活科の地区探検に引率していただいている。

都留文科大学ともいろいろな形で連携を図っている。国際交流の一環として、同大学に留学してくるアメリカのカリフォルニア大学の学生さんと交流会を行っている。対象は1～4年生でそれぞれの学年に1～2名入っていただき、10～11月に週1回の割合で会を持っている。同大化学ゼミの学生による「谷ニラボ」（理科科学

実験教室)も、年に3~5回の割合で実施している。大きなシャボン玉づくりやバラの花びらを凍らせてしまう実験など、子供たちの興味関心を刺激している。教員志望学生には学生アシスタントティーチャー(SAT)として来てもらい、放課後・授業中の支援等をしてもらっている。

また地区の協働のまちづくりのみなさんの協力で、三吉体験教室を開いている。放課後や週末に様々な体験活動(ものづくり、農業体験、自然体験、調理、読書、昔のあそび等)を年間40回以上を開催していただいている。

今回の発表では、地域とのつながりということで、土曜参観・体験学習会(地域の人から学ぼう集会)を取り上げる。

3、土曜参観・体験学習会について

A 日程と内容について

手仕事が少ない中、地域のその道の達人を招き、その技を少しでも子供たちに体験させ、手仕事への関心を深めるとともに、親子で制作に携わる時間を持つことで、共通の話題づくりに寄与することを目的として実施している。内容については、5校時に全校一斉に道徳の授業参観を行い、その後、六つの講座に分かれて、親子で体験学習に取り組む。

本年度の講座は①絵手紙②うどんづくり③ウッドクラフト④陶芸⑤しめ縄づくり⑥竹細工で、希望により選択をし、親子で取り組む。講師はいずれも地域の達人で、準備から作業まで一手に引き受けていただいている。



具体的な日程や各自の持ち物等については次のとおりである。

(1) 日時 平成28年10月22日(土) 12:40~

(2) 日程 午前中は3校時まで平常授業

11:30~12:00 昼食(お弁当)

12:00~12:20 清掃

12:20~12:40 昼休み

12:40~13:25 5校時 **授業参観**

13:25~13:45 帰りの会

13:45~13:50 (全体会) ① 始めの言葉 (各教室)

② PTA会長挨拶

③ 学校長挨拶(講師の紹介)

④ 諸連絡

13:50~14:00 移動

14:00~15:30 **体験学習** (終わったら各会場ごとに解散)

(3) 体験学習について (予定)

- 【絵手紙】 内 容 絵手紙づくり 講 師 ○○さん他
持ち物 絵の具・小筆 会 場 理科室
- 【うどん】 内 容 うどんづくり 講 師 ○○さん他
持ち物 エプロン ボウル のし棒 三角巾
会 場 ホール・家庭科室 *1軒で一つつくります。
- 【ウッドクラフト】 内 容 木工品づくり 講 師 ○○さん他
(3年生以上向き) 持ち物 のこぎり・鉛筆・三角定規・30cm定規
会 場 図工室 *児童分制作します。
- 【陶芸】 内 容 カップづくり 講 師 ○○さん他
持ち物 空き缶 (350 ml)・新聞紙 会 場 体育館
- 【しめ縄】 内 容 しめ縄づくり 講 師 ○○さん他
持ち物 はさみ・セロテープ 会 場 特活室
- 【竹細工】 内 容 竹とんぼ、水鉄砲づくり 講 師 ○○さん他
(3年生以上向き) 持ち物 小刀またはカッターナイフ 会 場 体育館
- ※ 持ち物については、多少変更があるかもしれません。

(4) その他 ・駐車場はグラウンドを使用してください。

- ・親子、兄弟姉妹で一緒にどれかの体験をします。準備の都合がありますので、よく相談の上、次の「参加票」を10月5日(水)までにご提出ください。

B 講座について

講座については6講座で収まっている。長年試行錯誤した結果、6講座に結実している。

①絵手紙 (15家庭)

一人2、3枚の絵手紙を作成している。墨汁と絵の具を使って一気に描き上げるので風情のある作品にしあがる。中には5枚もしあげる児童もいる。親子の会話が十分に弾むので、笑い声に包まれた講座となっている。



②うどん（22家庭）

一家庭ひと玉のうどんをつくる。講師の方は前日に学校に来て、下準備をしてくれる。長年の積み重ねがあるため、レシピが作られている。それに沿って作業が進められるので、人数の多い割にはスムーズに作業が運ばれる。

混ぜて、こねて、たたいて、切って、だんだんうどんが出来上がっていきます。親子の絆も深まっています。



③ウッドクラフト（18家庭）

ウッドクラフトは参加児童一人一人が作品をつくるため、参加児童分の材料が用意されている。当初は長板をのこぎりで切るという作業もあったが、限られた時間の中で仕上げるのは難しいので、講師の方が時間内で仕上がるような材料の加工等に力をいれていただいている。



④陶芸（8家庭）

参加者全員が一つのカップをつくる。陶芸は粘土をこねて形をつくり、それを乾燥させ、上薬をぬり釜で焼き上げるまでと作品が完成するまで手がかかる。体験活動で行うのは粘土をこねて形をつくるまでである。あとは講師の方をお願いしていた。

ずっと地域の方が講師として指導をしていただいていたのだが、高齢のため、講師を降りられた。後任がなかなか見つけられずにいたところ、都留文科大学の陶芸の先生が講師を引き受けてくださった。焼きあがった陶器を手にする子供たちは満面の笑みを浮かべます。



⑤竹細工（12家庭）

以前は竹トンボづくりをしていた。ここ数年は竹細工と銘打ち、つくるものの幅を広げ、竹トンボや水でっぼう、スギでっぼうなどを作っている。材料はすべて講師の方が用意してくださっている。



⑥しめ縄づくり（12家庭）

地域の年配の方3名を講師としてお願いしている。この講座ももう長くつづいており、年配の方に講師をしていただいているので、講師の方も何人も入れ替わりつつも、継続して講座を実施している。お正月のしめ飾りを主につくっているが、材料は講師の方がすべて用意してくださっている。実際のしめ飾りができあがるまでの家族もとても満足して持ち帰っている。



C 今までの取り組みを振り返る

手元の資料を掘り起こすと、土曜参観・体験学習会は平成10年（1998）ころから、始まったらしい。当時は、日曜参観「地域の人から学ぼう集会」といわれ、日曜日の午前中に行われていた。

「火おこし」「竹とんぼ」の二つの講座から出発し、翌平成11年は、救急蘇生法が取り上げられているのを見ると、時代を感じさせる。

その後講座を拡げていくが、講師の関係やら、準備の関係もあり、苦心されたことと思われる。その頃の講座「火おこし」「紙ひこうき」「押し花」はなくなり、現在行われている6講座になった。この6つの講座とて、毎年実施される保証はなく、常に新たな講座についても考えなくてはならない。

平成17年（2005）から、土曜参観・体験学習会という現在と同じ形になって、今に至っている。

表1（土曜参観・体験活動会の歴史）

	H10 1998	1999	2000	2001	2002	H15 2003	2004	2005	H18 2006
火おこし	○	○							
竹とんぼ	○						○	○	○
しめ縄		○	○	○					
救急蘇生法		○		○					
手芸			○	○	○	○	○	○	○
うどん			○	○	○	○	○	○	○
紙ひこうき				○	○				
絵手紙					○	○	○	○	○
押し花				○	○				
ウッドクラフト						○	○	○	○
陶芸									

表 2 (土曜参観・体験活動会の歴史)

	H19 2007	2008	2009	2010	2011	H24 2012	2013	2014	2015	H28 2016
火おこし										
竹とんぼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
しめ縄	○		○	○	○	○	○	○	○	○
救急蘇生法										
手芸	○	○								
うどん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
紙ひこうき										
絵手紙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
押し花		○	○							
ウッドクラフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陶芸		○	○	○	○	○	○	○	○	○

4 おわりに

長く継続しての活動なので、各家庭において、親子で毎年違う講座にチャレンジしたり、毎年同じ講座に挑戦してスキルアップを図ったりなど、様々に取り組んでいる。保護者にとっては貴重なお休みを親子で充実した時間に充てることで子供たちのコミュニケーションの一つとして定着している。また地域の方々も毎年この日を楽しみにしており、お互いの連携をより深めるいい機会となっている。

地域とともに進める体験活動は地域の方の協力があってこそ、成り立つもので、これからも一層相互理解のもと、地域連携を行っていくことが大切である。

継続するにあたっては、その目的、意義、これまでの取り組みの歴史をお互いに認識・確認することが大切である。

具体的に講座を実施するにあたっては、講師の方への負担が大きい。特に材料については講座によってはほとんど自分で用意をされているし、また材料の加工などもほとんど自前で行っていただいている。こういった負担にどう対処していくか、また、高齢の方が次の方にどう講座を引き継いでいくかなどの人的課題もある。